

専修大学ネットワーク情報学部 2012 年度卒業演習募集要綱

教員氏名（職位）	望月 俊男（講師）
連絡先 / 研究室	tmochi@mochi-lab.net / 5号館 3階 G14
募集演習分野	人間・文化と情報 インタラクション・マルチメディア
キーワード	学習環境デザイン 情報環境と学習 教育工学 学習科学
科目配当タイプ	通年 4 単位型 [前期：卒業演習 1 後期：卒業演習 2]

研究テーマ、プログラムとの関連

望月研究室のテーマは「学習環境のデザイン」です。情報通信技術（Information Communication Technology: ICT）等を活用し、学習科学の知見を活かして、人の学びを支援する新しい学習環境やリソースをデザイン・開発した上で、実験・授業実践・調査を通して、学習支援のあり方を研究しています。

情報通信技術等を応用した学習環境デザインとしては、企業や大学の e ラーニングや、最近普及しつつある Nintendo DS や Wii などの学習ソフトウェアが一例として挙げられます。最近では iPad や iPhone、タブレット PC 上の学習コンテンツや、AR 技術等を活用した学習環境、ICT 活用の新しい教室も登場しています。

こうした学習環境のデザインは、学校の中だけでなく、卒業後、仕事場（オフィス）や、趣味の場でも行われるようになりました。また、情報通信技術を用いなくとも、ワークショップやカフェイベント、アサカツのような新しい学びの場がどんどんデザインされてきています。

本研究室では、学校（神奈川県・千葉県・東京都）や複数の大学と連携して、このような学習環境のデザインとその評価を、実践的に取り組んでいます。担当者は応用演習（社会情報）や教職課程を担当していますが、過去には、ネットワークシステムコースや情報戦略コースの学生も多く受け入れています。

研究は、①自分自身でテーマ設定する形式と、②担当教員の研究プロジェクトに参加する形式があります。

①は、教育・学習（とくに協調学習）、教師支援や、e ラーニング、情報教育、あるいは教育心理・認知心理とコミュニケーション等に関する問題を取り上げるのであれば、可能な限り受け入れたいと考えていますが、必ず応募前に担当教員と面談し、応募用紙に書く研究計画について、あらかじめ相談してください。

②は、細かなテーマは自分自身で設定しますが、領域としては、以下のようなものが挙げられます。

- ・ タブレット PC を活用した文章読解支援ソフトウェアに関する研究（学校等で活用しています）
- ・ 教育実習生の授業づくりを支援するための研究

（SNS を使った教育実習支援の研究；マンガの研究；AR を使った授業シミュレーション、看護師の業務シミュレーションの研究；学習科学の教師教育への応用に関する研究 など）

- ・ 情報教育の方法や教材開発に関する研究 ... など

これらの詳細は研究室 Web (<http://www.mochi-lab.net>) で一部公開しています。学生の問題意識がこれらに近い場合には、プロジェクトに周辺参加しながら、卒業制作のための研究を行う可能性があります。

【演習（研究室活動）の構成】 下記の活動に参加することが必須です（(4)は一部オプションあり）。

- (1) 毎週火曜の 17 時～のゼミ（研究発表と輪読）：研究発表は進捗報告＋議論。輪読は、基礎体力を身につけるため、学習科学や教育心理学の基礎文献を読んだり、応用領域の文献を読みます（レベルや内容は履修者に応じて決めます）。
- (2) 春休み・夏休みに行う合宿：他大学の先生方や大学院生と一緒に楽しく学習します。
- (3) ゼミ以外：(a) 自分の研究を進めるほかに、(b) 研究室のプロジェクトへの参加（開発やフィールド

専修大学ネットワーク情報学部 2012 年度卒業演習募集要綱

ワーク、見学) があります。その過程で研究の進め方や考え方、他機関との交渉術等を学びます。

- (4) 毎週金曜日の 6 時限目の時間帯に、東京工業大学で行っている他大学の先生方とのゼミへの参加・発表(オプション)。ただし中間発表や最終発表前の発表練習は必須。多角的に指導助言を頂きます。

想定している成果の形式

1. 卒業論文：A4 版で本文 30 ページ以上の論文(報告書ではない)。参考文献(Web をのぞく) 15 本以上を基準とする。これを越えないものは不合格です。企画書レベルではなく、(開発・) 評価・実験・調査にもとづく実証的研究を求めます。グループ研究も可ですが、貢献範囲を明確にするとともに、相応の分量の論文執筆(2 人なら 60 ページ、3 人なら 90 ページ) が必要です。
2. 成果発表のプレゼンテーション：卒業制作中間発表会および最終発表会への参加は必須。場合によっては、3 月に卒業論文の内容をまとめて、学会発表をすることがあります。

選考基準、応募用紙に記載して欲しいこと

本研究室は、どのプログラムの学生も受け入れますが、以下のような選考基準があります。

- a) 大学 4 年間の集大成をがんばって残そうと思える人(卒業論文は 99% の努力と 1% の新規性)。
 - b) もちろん、それなりの配慮はしますが、学業と就職活動の両立をしようとがんばれる人。
 - c) 学習・教育に強い関心を持ち、問題意識をもっている人。研究室のプロジェクトを積極的に手伝おうとする人。リアルな研究を体験できます。
 - d) 自分で学び、自分で考え、自分で動けること。自分でどんどんやる人は、積極的に応援します。自分でやらない人は、応援することができません。担当者の研究ではなく、あなたの研究だからです。
 - e) 現場体験あってこそその研究領域です。大学外に出て行ったり、大学内外の人に意見を求めたり、研究会に参加したり見学したり、積極的にできる人。担当教員の専門領域外の指導(たとえば数学教育等)は、学外の先生に求めることが多々あります。
 - f) 自分の意見を主張するだけでなく、他の人の話をよく聞き、自分自身を改善していこうと思える人。他人の成長に対して関心があり、そのために建設的な意見を出したり、相互貢献しようと思える人。仲間への貢献なき参加は不参加と見なします。真摯な議論ができることが大前提。
 - g) 授業の時間は、学習や教育に関する基本的な考え方を十分に習得するため、研究相談(進捗報告+ディスカッション) 以外に、必要な文献講読をします。本や文章(論文など)を読んだり、資料を集めて考えたりすることをいとわない人。必要があれば、英語文献も読むことが望ましい。
 - h) 「教育支援情報システム総論/各論」「学習科学」のいずれかを履修済みか、同時履修すること。
- 応募用紙には、担当者との相談を踏まえ、1 年間でやりたい研究内容を具体的に記入してください。
- 応募多数の場合の選考基準は、研究テーマの内容、面接、成績で行います。

相談期間のコンタクト方法

本研究室の活動に参加したいと考える学生は、何をしたいと考えているのか、希望する研究テーマを検討の上、必ず相談しに来てください。本研究室で対応可能なテーマかを検討する必要があります。

オフィスアワー(月 13:00~14:00; 火 13:30~14:40) 電子メールで予めアポイントメントを取ってください。それ以外の時間も相談次第で時間を確保します。3 年生でもゼミの見学を積極的に歓迎します。